

『もりおかの短歌』夏の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

愛猫のいない夏 あいびょう なつ

つと銀ドロの深き木影に ぎん ふか こかげ

マスクをはずす

盛岡市 郷家 美磨

病む夫に寄り添ふ吾も衰へて や つま よ そ われ おとろ

古里岩手 ふるさと いわて

手繰りて生くる たぐ い

青森県青森市 鈴木 操

城跡に来れば しろあと く

脳裏を駆け巡る のうり か めぐ

盛岡城の復元ビジョン もりおかじょう ふくげん

盛岡市 小林 貴史

うばゆり さ  
婆百合の咲く

ながまち たず ゆ  
長町と訪ね行く

たくぼくす しんこん いえ  
啄木住みし新婚の家

東京都杉並区 高崎 美也子

あそ かほん きつさてん  
せきれいが遊ぶ河畔の喫茶店

やなぎ こかげ  
柳の木陰に

ふうりん おと  
風鈴の音

盛岡市 西川 政勝

つ お  
カジカ突きハヤ追いかけし

なかつがわ  
中津川

こたち こえ いま なつ  
子達の声も今は懐かし

盛岡市 赤坂 昌信

擬宝珠下ぎぼしした

染物流し藍揺れてそめのなが あいゆ

職人巧古都守りたりしよくにんたくみこ とまも

盛岡市 三澤 信裕

じゃんじやんと煽る掛け声あお か ごえ

わんこそば喉をするりとのど

胃袋満たすいぶくろみ

盛岡市 河野 康夫

頂きは雲に隠れて岩手山いただ くも かく いわてさん

旅人吾もたびびとわれ

マスク外せずはず

神奈川県秦野市 加藤 三朗

涼風すずかぜのわたる水面みなもに映るうつのは

御所湖ごしよこの空そらと

美うつくしき岩手山いわてさん

東京都板橋区 三宅 真紀子

『もりおかの短歌』夏の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞三首

① 幸呼来と

おも こ  
想いを込めてひびかせた

とど はちがつ かぜ  
届けてほしい八月の風

盛岡市 荒井 心々愛

② 高松の

たかまつ しろ  
白いボートをゆらすのは

ひかり しんりよく かぜ  
光をそそぐ新緑の風

盛岡市 阿部 菜央

③ 春の夜灯籠の中照らされて

はる よるとうろうう なかて  
春の夜灯籠の中照らされて

しんさい  
震災のこと  
こころにきざむ

盛岡市 松坂 勇飛

【講評】

〈一般部門〉

県外からの参加者も多く、盛岡で何を発見するか、楽しく選歌した。素材は独自の感覚で見つめるのが良い。そして、整っていることが大切である。気持ちを言い切るのではなく、余情を残すことが、短歌には求められる。

〈ジュニア部門〉

ジュニア部門の作品は素直に気持ちを表現していると感じた。短歌の見所の一つは素材である。何を詠っているのかによって、歌の評価が決まる場合もある。新鮮な目で素材と向き合い、その気持ちを語って欲しいと思う。

令和三年九月選 夏の部

投稿数 二百七 首

選者 赤澤 篤司